

文部科学省特別選定

少年、青年、成人、家庭向き

存在を否定され、死ぬ自由を突き付けられ、  
それでもなお地域社会に分け入っていく勇敢な呼吸器ユーザーたち。  
今までこんな風に見たことはなかった。  
存在理由を獲得していく彼らの姿が遅く眩しく映っていた。  
世界を救うヒーロー・ヒロインに見えてきた。  
川口有美子 【作家・日本 ALS 協会理事】

「出来ないことがすごいたくさんある中で、  
障害者が出来る大きい仕事っていうのは、  
外に出て人目について、  
人の意識の中に障害者の存在を  
ちよっとでも根付かせていくこと」

人工呼吸器は、呼吸を助ける道具です。  
そこから吹いてくる風が、人と人とをめぐり合わせてくれます。

# 風は生きよという

追い風は、ときどき前からふいてくる。

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かさなくなったとしたら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの人に出会い、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。じんわりとところを揺する、人と人とが織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かさない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。その風に包まれた人と人とが、支えあひながら生きていたことを。



## 【人工呼吸器とは？】

障害や病気により、肺を動かす筋力が弱い人たちの呼吸を補助する医療機器です。様々な種類があり、かかりつけの病院からレンタルされています。呼吸の回数や量、リズムなどを細かく設定することで自分に合った呼吸ができます。



【お問合せ】「風は生きよという」上映実行委員会

〒761-0104 香川県高松市高松町873-102

TEL:080-3457-8833 FAX:087-883-6570

Mail: kazewaikiyotoiu@gmail.com 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

www.kazewaikiyotoiu.jp